

シルクテキスタイル産地の構築について

【担当省庁】経済産業省

京都府では、国が指定する伝統的工芸品である西陣織及び京友禅と、国指定伝統的工芸品ではないが、国内最大の和装白生地産地としてその基盤を支える丹後織物の京都が誇る染織3産地が連携して、和の文化力や技術を生かし、世界のニーズに応えられる「世界的なシルクテキスタイル産地」の構築に取り組んでいるところである。

その中でも、丹後織物については、和装白生地だけでなく、ファッションやインテリアのテキスタイル生地など、伝統的な工程を守りながらも、時代のニーズに対応した様々な商品を生み出し続けており、現在も地域の基幹産業として多くの事業者が製造に従事されている。

国内の和装産業を支える伝統的工芸品の振興並びに地域経済の発展のためには、本物の伝統工芸品としてのブランド力の向上や国内外での認知度アップが重要であることから、以下のとおり御対応をお願いしたい。

- 長年にわたり、卓越した技術の継承を続けている丹後織物を伝統的工芸品に指定いただきたい。
- 丹後織物産地が行う新時代の染織産地としての発展に不可欠な販路開拓や人材育成の取組を「伝統的工芸品産業支援補助金」等により支援していただきたい。

【現状・課題等】

- 丹後織物産地は、300年を超える長い歴史と、500社弱の事業者がいる国内最大級の織物産地。事業者を束ねる丹後織物工業組合も、組合として100年を超える歴史がある。
- 伝統産業の後継者育成等を支援する「伝統的工芸品産業支援補助金」は、対象が国の指定を受けた伝統的工芸品に限られており、長い歴史と伝統を持ち、京都府が京もの指定工芸品として指定する丹後織物は対象外となる。
- 丹後産地は国内最大の和装白生地産地であり、また、西陣織の生産基地として帯、ネクタイ、インテリアなど先染織物の製織にも携わることから、西陣織や白生地を染める京友禅にとって不可欠の存在である。
- 和装産業の市場縮小（生産量：ピーク時の4%以下）に伴い、産地の存続のためにはニーズを意識した販路開拓や生産体制の再構築が必要。
- 令和7年2月26日に丹後織物の伝統的工芸品の指定について近畿経済産業局と協議を行い、継続協議することで合意し、まずは指定範囲（丹後ちりめんとしての指定なのか工芸品に限定するのか等）を明確にすべきとの助言があった。
- 上記を受け、3月11日に今後丹後織物工業組合と協議を行い、今後指定に向けた準備を協力して進めて行くこととなった。

京 都 府 の担当課	商工労働観光部 染織・工芸課(075-414-4856)
---------------	------------------------------

【国の事業等】

■伝統的工芸品産業支援補助金〔経済産業省〕 3.6 億円

- ▶ 伝統的工芸品産業の振興に関する法律第2条に基づき指定を受けた伝統的工芸品を製造する協同組合等が、経済産業大臣の認定を受けた各種事業計画に基づき実施する後継者育成や需要開拓・意匠開発などの取組を支援

【京都府の取組】

■産業創造リーディングゾーン

- ▶ 各地の歴史や産業集積の状況などの地域の特性を踏まえ、産学官や内外の人材が交流することで、新たな産業創造を行える「産業創造リーディングゾーン」を構築（個別分野として、「シルクテキスタイル産地」を位置づけ）し、その効果を府内全域に波及させていくことで京都府の均衡ある発展を推進

■「シルクテキスタイル・グローバル推進コンソーシアム」の設置（令和3年4月）

- ▶ 京都府内の西陣織・京友禅・丹後織物3産地が連携することにより、和の文化力や技術を生かし、世界のニーズに応えられる魅力ある商品づくりを展開し、さらには直接バイヤーと商談できる力を養い、シルクテキスタイルの世界的な産地となることを目指す

■伝統産業産地振興拠点創出事業 94 百万円

- ▶ 西陣・堀川エリアや丹後地域において、テキスタイル分野の若手デザイナーやアーティスト、事業者等を集め、新たな事業創出を促進
- ▶ 伝統工芸品の海外展開等の更なる販路開拓を促進するため、事業者の掘り起こしから事業構想、実際の販売に至るまで、トータル的な伴走支援体制を構築
- ▶ 伝統産業事業者に対して、異業種の事業者と連携した新商品開発や販路開拓等に要する経費を支援
- ▶ 国内外のデザイナーやアーティストなどのクリエイティブ人材と染織産地が協力して行う、高級ファッションやインテリア・建材市場などをターゲットとした新たな発想や感性による商品開発を支援（クリエイターズインレジデンス事業）